



二松學舎大学

父母会報

平成 5 年 5 月 10 日創刊
平成 28 年 3 月 31 日発行
(第 92 号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



卒業を祝す

父母会会長 田中 福男



二松學舎大学
第二十三代父母
会会長の田中福
男です。

卒業生の皆

様、ご卒業おめでとうございます。

また、御父母の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

三月十六日(水)に中野サンプラザホールにて学位記授式(卒業式)が、落ち着いた雰囲気の中厳かに挙行されました。

その後、二松學舎大学父母会によります卒業パーティーを『帝国ホテルの富士の間』で多数卒業生の出席を頂き菅原学長の温かいお言葉を頂戴致しまして華やかに開催する事が出来ました。今年も卒業パーティーを『帝国ホテル』で実施する事が出来て安堵しております。

思い起こせば、卒業生の皆様が二

松學舎大学にご入学されましたのは、東日本震災の一年後でした。一年経過しても復興はまだで、私の故郷の陸前高田市も復興が見えない状況だった記憶があります。その皆様が、二松學舎大学を卒業されました。

これからは、社会人として、『社会の荒波』に漕ぎ出す事になります。グローバル化社会であり、少子高齢化社会であり、法令順守社会、セキユリティーとルール化社会等の課題に対応して行く事になります。その時に、二松學舎大学での四年間の学生時代に得た知識と経験を活かす事が出来ると思います。

また、社会人となって得る知識が数多くあると思います。長い人生で数多くのチャンスとピンチに遭遇すると思います。そんな時、日頃から自分のアンテナを鋭くする訓練をしておくと素早く対応する事が出来ると思います。

末筆となりますが、卒業生の皆様には、OBとして後輩のご支援を今後もよろしく願います。卒業生のご父母の皆様、二松學舎大学父母会事業にご理解とご協力を頂きましたことに対して感謝を申し上げます。

また、二松學舎大学の教職員の皆様におかれましては、子供達の為に公私にわたりご指導を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

「復元力、柔軟性、創造力！」

理事長 水戸英則



ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、これから、大人としての自立

した生活、自己責任の下での生活が始まります。皆さんが生活する社会、グローバル化や知識基盤社会、情報化が進展、変化のスピードが非常に速い時代、未来が予測できない

世の中です。皆さんは大学で基礎・専門知識を習得し、語学力、分析力、論理力、社会的責任能力等を身に付けました。実社会に出るに当り、これらに加え、「復元力、柔軟性、創造力」を身に付けて生活して行くことが必要です。

まず復元力 Resilience です。これは、船が傾いた時に、水平に戻る力を云います。不意に訪れる逆境に対して、乗り越える心、強靱な心を持つと云う意味です。今後皆さんが進

む人生も、常に順風満帆とは限らず、予期せぬ逆境をどう乗り越えるかが、大切です。常に精神をポジティブに持つ訓練をして、復元力を身に付けて欲しいと思います。

次に柔軟性、Flexibilityです。その場に応じた適切な判断ができること、様々な状況に対応できることをいいます。これから皆さんは、職場の同僚や取引先企業の担当者と一緒に仕事を進めなければなりません。その場合大切なのは、「お互いの意見や立場の違いを理解する」という点です。自分と異なる考え方や価値観に出会った際には、「そういう考えもある」と理解することも必要です。最後は創造力、Creativityです。

新しいものをつくりだす能力、答えを導き出す能力をいいます。創造力は、既存のものを組み合わせ、変更・修正して新たなものを創り出す力を指しています。この力を付けるには、仕事を通じ、早くその道の専門家になることは勿論、それだけではなく、仕事以外の分野にも興味を持ち視野を広げるなど、常に自分を深め、人間の幅を拡げる努力をすることも大切です。

皆さんは、これらを念頭に置いて、自立した家計を営み、社会的な活動の中で、その影響を周りにも及ぼし、日本や世界の社会を、よりよい社会にしていく人材として活躍するよう願って皆さんへ送る言葉とします。

ご卒業おめでとうございます

学長 菅原淳子



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

に、新たな人生の扉を開こうとされている皆さん。皆さんは目の前にある様々な可能性を持った道を選ぶことも、また自らが新たな道を拓くこ

とを選ぶこともできます。どうぞ自信を持って新たな一歩を踏み出して頂きたいと思えます。

皆さんにとって、大学を卒業することは大学での学業の終了を意味しませんが、決して学びの終了ではありません。むしろこれからが始まりであって、これまで学んだことを基礎に、これからの自分の人生をスタートさせることであり、学びも続いていくことになるでしょう。就職して

仕事に就けば、新たに学ぶことはたくさんあるでしょう。大学院に進学すれば、これまでの研究をさらに究めていくこととなります。また、大学で学んだことと異なる分野での学びに、興味を覚える方も出てくるかもしれません。皆さんには是非、知的好奇心を常に持ち、生涯を通して学んで頂きたいと思えます。

皆さんは社会人となり、自らの人生を自身の力で切り拓いていくこととなります。人生の中でさまざまな問題に直面した時に、自らの力で解決方法を見出すことが求められることでしょう。そこで問われてくるのは、主体的に取り組む力、自ら考え

る力だと思えます。皆さんがこうした力を、大学での4年間で身に付けて下さったと信じています。

現代のように、情報が溢れ、社会が急速に変化している時代において、周囲に振り回されることなく、的確に判断を下していけるよう努力して頂きたいと思えます。そして皆さんが社会人としての自覚と責任を持って、社会に貢献していけることを期待致します。

さまざまな可能性を持つていらっしやる皆さんの前途が、希望に溢れていることを祈念して、贈る言葉と致します。

分と器

文学部長 江藤 茂博



ものを考
えるための
力を手にで
きるよう
に、私たち
教師は君た
ちを鍛えたつもりだ。社会や文化の
根幹である言葉や表現をめぐる知的
な論理論証トレーニングが、文学部
では積み重ねられてきたからであ
る。すぐに役に立つようなものは学

に立ち向かうために、自身を見つめ直して欲しい。特に己の分を知るべきだ。分をわきまえるというが、自分や身分などと使うこの分は制限的なものではなく、可変的なものであり、ここでは己の立ち位置を知ることだ。分を越えて、いばる、でしゃばるなど、世の中にはわきまえない者たちが闊歩している。

また、分を知ってこそ、ひとは良器になることができる。ただし、器は使われることではじめてそれとなるので、個のみの問題ではない。己を知るからこそ他者との連携が可能になり、共に育つことになる。それが器だ。ひとは器としても育たな

ければならない。大器晩成という言葉もあるが、世の中には器の小さな人物がいかに多いことを、これから君たちは知ることになる。たいていの小人は、分をわきまえない。わきまえないからこそ、自分の良質な面を見出せず、わめき騒ぐことになる。そして器にすらなれなくなる。おとなになるのは簡単だが、大人になるのは難しいのだ。まずは分をわきまえること。そのことで、有用な器を成して欲しい。

ご卒業おめでとうございます

国際政治経済学部長 中山 政義



卒業生の
皆さん、ご
卒業おめで
とうござい
ます。これ
から社会に
向けて、それぞれに二松學舎大学を
巣立って行くこととなりますが、ど
の道においても、皆さんの若き情熱
をもって進めば、何事も恐れること

はありません。
学生として勉学に励み、自己の能
力を高めてきた皆さんですが、これ
からの生活では、今まで以上に、多
くの試練が待ち受けていることで
しょう。慣れない環境の中で遭遇す
る試練は、乗り越えることができな
い高い壁と感じられるかもしれません
。けれども、一心に努力を続けられ
ば問題の打開策は見つかるもので

す。そして、あなたが精一杯努力し
ている姿を見ている人が、あなたの
周りに必ずいます。誠実に物事に向
き合うことで、得難い信頼も得られ
るものです。

私は、世の中を生きていく上で何
よりも大切なのは、人と人とのつな
がりであり理解であると思っていま
す。皆さんが大学で学んだ人文科学
や社会科学は、個人や集団として
の、人の心の動きに注目した学問で
す。また、教員と学生、学生同士の
距離が近い二松學舎大学に通った皆
さんは、学修や様々な活動を通じ
て、コミュニケーションを大切にす

る姿勢が、自然に身に付いているは
ずです。母校を思い出し、在学中に
育んだ知識と経験を存分に生かして
ほしいと思います。

以前、ある教員が卒業生に向けた
送別の言葉の中に「上手くやろうと
思っても、そう計算通りにはなりま
せん」という言葉がありました。私
もそのように思います。目前の利益
や、楽に過ごしたいという誘惑に負
けることなく、試練に挑戦する意欲
を保ち続けることで、良い人間関係
が築かれ、明るい将来が皆さんに、
もたらされると確信しております。
心より、ご活躍をお祈りいたします。

後多摩と大祈りの中にいます

多田一匡

いつもやそれは新しい物語り

別の長い物語りではないだろうか

(大西巨入「神聖喜劇」)

山口直孝

たまには近況報告でも送って
下さい、僕も必ず返事を
書きます。

五井信

ゆくりり空さる

稲田篤信

文学部

国文学科の先生方から饒の言葉を頂きました

大子祭で行うアソビ

今年はおもいカミングアウトに
行い出そうのとき

山崎正伸

いつも笑顔で

進んでください

水絵

お金えは必ずさよなら
そこらへん仲じた時間り上を
全て越えて歩いていけよ

高田泰子

自分の直感を信じて

榎田今日子

正直の顔は
神宿る

大橋吉次郎

苦あれば楽あり

中川 桂

初心清久のめいを慕いせいはするが
そいそが かわい太にすれれた
駄目なこの一歩を 時代のせいにするが
わすれぬ光る将軍の放棄
(漢本のり「自分の発想はいい」)
清田浩

一期一会

谷川 実

松本道子

...

...

...

春短かし

何に不滅の命ぞと

牧角悦子

皇天無親

惟德惟輔

野間文史

欲窮千里目

更上一层楼

敬天愛人

永井 鉄郎

御幸、業と親して一言

これからが大変なことです。

心しておかぎりまじまじ。

色んな意味で、高山

張佩茹

文学部

中国文学科の先生方から饒の言葉を頂きました

第一義

只の存 逸

おもしろいことは他人に任せて

おもしろくないことはおもしろく

おもしろくやる。

町泉寿郎

念すれは花開く

伊藤晋太郎

「友朋自遠方來、不亦樂乎」
たまには近況を知らせて下さい。

戸内俊介

行け!

勇気もって

田端克至

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

藤田 幸祐

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

旅行で楽し

日本の上へ

名峰 隆一

社会あるところに

法あり

土屋 茂

国際政治経済学部

国際政治経済学科の先生方から
饒の言葉を頂きました

六分の使気四分の熱

高野和基

どんどん前に

すすめ

星 敏 大 虎

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

活躍をお祈りいたします

西川(サンデー) 雅子

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

Many Congratulations upon your graduation! I wish you all the best.
Masako Nishikawa - Sun Action

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

河原田 有 一

前に進む意欲と大力がなければ
活躍は行けません

中 小 政 義

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

毎日の「の」を寄せると
笑いの下でい

本野 晴子

卒業おめでとう...
活躍をお祈りいたします

暖川 可 央 子

押野 洋



平成27年度 卒業式

平成二十八年三月十六日(水)、中野サンプラザホールにおいて、平成二十七年二松學舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。着飾った卒業生たちが会場前に集合し、友達同士や親子で写真を撮る風景があちらこちらで見られました。

午前九時三十分、開式宣言に始まり、国歌斉唱、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済)の学位記・卒業証書が授与されました。

国文学科・中国文学科・国際政治経済学科それぞれの成績最優秀者には、中洲賞として賞状と賞品が授与され、その後、教育職員免許状が伝達されました。

続いて菅原淳子学長の告示、水戸英則理事長・廣田克己松苓会長の祝辞、祝電披露、送辞、卒業生代表の答辞、校歌斉唱と進行し、厳粛のうちに卒業式は終了しました。

卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切にして粘り強く仕事に取り組み、社会人として活躍されることを願っております。



業

平成27年度
卒業パーティー
in
帝国ホテル
富士の間

平成28年3月16日(水)、午後2時より帝国ホテル「富士の間」において、平成27年度卒業パーティーが開催されました。

パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語らいの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。





卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませている学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『思考で進んだ四年間』



文学部国文学科

阿部実咲

千人を超える「国文学科」としての圧倒的な規模が入学の決め手でした。兼ねてより、「世界で最も難解な言語」と評される日本語を学問として学びたい、という思いがありました。その為、国文学科が主役となる本学は非常に魅力的な存在でした。

具体的には、『山に登る』と『山へ登る』の違いは何か」「早口言葉は何故言いにくいのか」等、国語教育では教わらない事を知りたいと思っていました。入学し、疑問が解決していく爽快感と同時に、「では、この場合はどうだろう」という新たな疑問が生じる事が多々ありました。懐疑と思考と解決、私の日本語に対する向き合い方は、四年間、

このサイクルを繰り返し、その円周を広げる事がありました。

サークル活動もこのサイクルの速度を上げるのに役立ちました。一学年上の先輩が立ち上げた文系サークルでは、作品を鑑賞した際に、各々が生じた感動を言葉で表現する活動を行いました。一見、簡単な行為に思えますが、あえて意識し、発言しなければ、「やばかった」の一言で済ませてしまいます。それは即ち、思考を放棄する事です。このサークル活動により、常に言葉の存在を意識し、思考する習慣を身に着ける事ができました。

また、日本人とは異なる視点から日本語を捉える為に、日本語教師養成コースを履修しました。国語文法

とは違う区分での活用等、知識面はもちろん、模擬授業や実習により実践力を養いました。夏季休業時には合計八十枚のレポート・教案作成等、苦勞した部分もありましたが、その分、留学生に説明を理解して貰えた時の達成感は一際でした。

三年次からは、森野教授の日本語学ゼミに所属しました。このゼミには共通のテキストが存在せず、「日本語」に少しでも関係があれば内容は問われません。その為、『源氏物語』における敬語表現「パラオと日本語」「可愛い』の意味」「動物の諺」等、ゼミメンバーの発表内容に地域や時代の統一性は皆無です。しかし、それにより、本人が意識していない視点からの指摘が飛び交う、活発的な意見交換が行われる場となりました。

卒論では、三年次の発表を基に、オノマトペ「ぞくぞく」の多義性について類義語との比較検証を行いました。閲覧したい文献が古く、活字化されていない為、読解するのに時間を要する事もありました。文献調査の為、大使館や皇居を眺めながら、学校と国会図書館を往復した際の風景は忘れられません。

この四年間、私は日本語の海に浸る事ができました。そして、その状況に慢心せず、常に泳ぎ方を模索

し、前進する事ができました。これは、思考の指針を与えて下さった先生方や友人、大学生活を見守ってくれた家族を始めとする多くの方々の支えがあったからです。心から感謝しています。

仕事をする上でも、思考し行動するという事は、必要不可欠です。今後もこの姿勢を忘れずに、進んでいく努力をしていきます。



支えてくれた人達に感謝して



文学部中国文学科

木 滝 秋 絵

まず、無事に卒業できたことに安心しています。今までお世話になった方々に、卒業できたことを報告し、感謝の思いを伝えたいです。例えばこの四年間、様々な人達と出会い、交流し、助けられました。こうやって卒業できたのは、厳しくも温かいご指導をしてくださった先生方、片道二時間半の通学を支えてくれた家族、そして四年間共に学問に励み、遊んだ友人達がいたからです。

私が、二松學舎大学に入学したのは、高等学校時代の担任の磯田先生が勧めてくれたことがきっかけです。大学の進路に悩んでいた頃、授業で陶淵明の『桃花源記』を扱い、中国の古典作品に興味を持ちました。中国の文学や中国語を専門的に学んでみたいと思い、そのことを先生に伝えたところ、それなら私の卒

業した大学はどう?と、この二松學舎大学を紹介され、入学を決めました。この四年間その思いは叶えられ、勉学の方面においてとても充実した日々を送ることができました。あの時、磯田先生が助言をいただけなかったら、今の私はいなかったので、感謝の念でいっぱいです。

私にとって、この四年間はあつという間に過ぎていったように感じられます。四年前の春、千鳥ヶ淵の桜が満開に咲き誇る中、この二松學舎大学に踏み入れたことを、今でもはつきり覚えています。田舎の広い敷地の学び舎からやってきた私にとって、東京の高層ビル群の中に聳え立つ校舎は閉塞感と圧迫感があり、少し怖いもののように感じられました。当時の心情も、今となっては良い思い出です。入学したての頃、新しい世界に期

待する気持ちを抱いていた一方、初めてのことばかりで不安の気持ちも多かったように記憶しています。高等学校とは違い、大学では自分で時間割を組み立てなければならず、自分が学びたい分野を自由に選択できるということは、嬉しい反面、最初のうちはとても苦労しました。大学生活は、自分で選択し、責任を持つ機会が増え、戸惑いも生じましたが、その度に人間として成長できたように思います。

三年次・四年次は牧角先生のゼミナールに所属していました。牧角先生との思い出は、夏合宿のコーヒー事件から始まり、答辞の添削指導に至るまで、私の中に色濃く残っています。正直この二年間、先生には恐ろしい怖心を抱いていました。しかし、卒業の面接の際、一対一で指導を受けた時に、それは間違った感情だと気づきました。先生はいつだって熱心に真剣に私達に向き合ってくれていて、ストレートな言葉の裏には優しさがありました。卒業間際になって、ようやくそれに気づくことができました。この場を借りて、感謝とお詫びの気持ちを伝えさせてください。

私は、卒業論文では『謝小娥傳』という女性の仇討ち物語について研究しました。それは、私自身が何か

困難にぶつかると、すぐに挫折してしまう性格だからです。謝小娥のような強い女性を研究することで、弱い自分を克服し、人間として成長できないかと考え、テーマに選びました。謝小娥を動かしたのは、親孝行や夫への忠誠という儒教的な信条からだったのは確かです。しかし、それにも増して、彼女の「絶対に成し遂げる」という強い信念と、相手を思いやる気持ちがありました。卒業論文を通じて、この「強い信念」の大切さに気付かされたことは、自分にとって何よりの収穫でした。これから社会に出れば、今まで以上に辛く苦しい経験をすると思います。謝小娥のように、強い信念と思いやりの心を持って、どんな逆境にも乗り越えていけるよう、これから人生を切り開いていきたいと思っています。

最後に、教員の方々や両親、友人達に、これまで様々な場面で支えてくれたことに深くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。



『大学生活を振り返って』



国際政治経済学部
国際政治経済学科

高木 珠 里

私は四年前の大学入学当初から、大学という自由な環境の中でそれまでの高校時代まででは出来なかった事に挑戦するという事を目標にしました。自由な時間をどの様に使えば良いか考えた結果、国際政治経済学部である以上国際的な幅広い視野を持ちたいと思い、世界を知る為の行動を起こすという事をテーマにして大学生活を過ごしてきました。

大学一年次には国際ボランティアサークルに所属し、東南アジアの発展途上国の小学校校舎の修復支援の為にNPOと協力して修復資金を集う街頭募金活動や、現状を多くの人に知ってもらう為の講演活動などで約一年半活動しました。この活動を行う中で辛い事も沢山ありましたが、最終的に目標であった小学校校舎の修復が完了し、現地の子供達が新しい綺麗な校舎で嬉しそうに授業

を受ける姿を見る事が出来た時は、

それまで一年半の間の辛かった事も全て忘れてしまう程とても感動しました。そして、この活動を通して東南アジアの発展途上国の教育の現状を知った事で、当たり前だと思っていた日本の教育が素晴らしいものだったのだと知る事が出来たと同時に、私が二松學舎大学で学べているという環境はとても恵まれている事なのだと思える事が出来ました。また、サークルの仲間と出会えたことや、活動を通して交流した方々と出会えた事は私にとってとても貴重な財産となりました。

大学三年次の夏休みには、サークル活動での経験から東南アジアとは異なる生活環境の中にある小学校も見てみたいと思い、モロッコのサハラ砂漠にある小学校を訪ねました。そこでは日本文化を知ってもらう為

に日本語の授業を行ったり、日本から材料を持ち込んでうどんを作り振る舞いました。日本とモロッコという遠く離れた場所の文化と一緒に共有するという貴重な経験であり、私も現地の子供達もとても楽しく交流する事が出来ました。砂漠という過酷な環境下でも子供達の学びたいという思いは東南アジアの子供達と変わらず、日差しの強い気温が五十度近くにもなる暑い日であっても毎日歩いて学校に向かう姿には感銘を受けました。一方でモロッコがイスラム教の国という事もあり、それまで

漠然とイスラム教に偏見を持っていた部分もありましたが、実際にイスラム教の文化や人々の生活を見た事でそれまでの偏見は消え、何も知らずに偏見を持っていた事をとても恥ずかしく感じました。この経験から、聞いた話や噂などをそのまま鵜呑みにするのではなく、実際に自分の目で見て肌で感じ確かめるという事はとても大切な事だと実感する事が出来ました。

ボランティアの活動だけではなく、世界を知る為に海外旅行も積極的に行いました。アジア、北米、南米など。体力のある若い今だからこそ出来た旅行であったと思います。時間をかけて絶景を探しに行っ

たり、日本には無い食べ物を食べてみたり、言葉の分からない国でのコミュニケーションの大変さを実感したり、ありえない様な理不尽な出来事に遭遇したり、自ら進んで行動しなければ何も進まない状況があったりなど、日本では中々経験できない事を沢山経験する事が出来たと思います。

四年間の大学生活での経験から、様々な価値観や考え方があっていう事を知り、幅広い視野を持って物事を捉えられる様になりました。また、自ら進んで行動する事の大切さや素晴らしさも知る事が出来ました。

この四月からは社会人として新たなスタートを切りますが、四年間の大学生活で得ることの出来た経験を元に、幅広い視野を持ちながら恐れずに自ら進んで行動していく事を忘れず頑張りたいと思います。

最後になりましたが、卒業の日を迎えられた事、お世話になりました。全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。





文学部 教授
森野 崇

私の母校は、一学年がおよそ一万人というマンモス大学だ。キャンパスはちよつとした街といった趣で、平日はいつも学生であふれていた。

一年生の時はクラス指定の必修科目が結構多く、少々不満だったが、だいたい一日一科目は同じ顔ぶれで受講するから、クラスの友人がすぐでできるというメリットもあった。



国際政治経済学部
特別任用講師
西川雅子
Masako Nishikawa - Van Eester

うすらばんやりした女子大生の私に、ある日、天啓の如く閃いたのは「英語の教員免許を取ろう」という考えだった。英語が好きでも得意でもないのに英文学科に入ってしまったので相当頑張らないと覚悟を決めた。

そこで昼間は大学に、夜は専門学校に通った。週五日制で一晩に二クラス。学期末に地獄の進級試験を受け、

選択科目については、当時はあらかじめ引いたくじの番号順(アナログでしょ?)に登録するしくみで、指定時間に登録会場に向くと、「〇〇学講義残り五名」とか「〇〇

学概論登録メ切」といった掲示があり、残数表示を見ながら、慌てて時間割を組み直したりした。体育だけがコンピュータによる抽選で、選択した種目を通年で履修するため、

人気科目とそうでない科目との差が大きかった。希望が全部通らず(第五希望ぐらいまでの記入欄が

合格すると上級へ。卒業は最短で四年、十クラスのうち一つでも落とすと留年、卒業できるのは入学

時の一割。教師陣は本国から派遣される米国人宣教師で、日本人大学教授が担当する文法と時事英語と講読以外、全て米語ネイティブスピーカーによる、日本語禁止の授業だった。発音を矯正され、日常会話やスピーチを学んだ。私は編入試験を受け飛び級で入ったので、大学卒業の少し前に卒業。週末は、家庭教師や塾講師として働いた。教員免許は無事取得。(そう言え

私の学生時代

あったと思う)、一年間ボクシングをやることになったクラスメートの女子は、青くなっていた(案外楽しかったようだ……)。

大学では、友人とくだらない話やまじめな話をするのも楽しかったが、空き時間に一人で喫茶店や空き教室で本を読むのも好きだった。小説も研究書もなんでも読んだつもりだが、近現代小説をとつても、よく読

んだ作家は漱石・芥川・太宰・三島、課題で出たときのみ読んだ作家は鷗外・志賀・川端……と、今思う

ば、大学も英国人・米国人教員が多かった。大学を出て初めて海外へ。一年間の奨学金プログラムで、アメリカの大学院でバイリンガリズムを学んだ。同級生

は国籍も人種も母語もさまざまであったが、私以外は皆、昼間は教師で、夜の授業は夜だった。そのまま勉強を続けようとも考えたが翌年、ベルギー(フランダース地方)にお嫁に行き、そこで暮らすことになった。フランスはオンライン語圏なので、着いた翌日からオンライン語の夜学に通った。

となんだかわからない偏りがある。

二松學舎同様、三年生になるとゼミ(「特殊研究」という名称だった)を選択する。私が選んだ国語学のゼミは、十人ちよつとのほどよい人数で、確か金曜日(の五限という、終わったら飲みに行ってくださいという時間割設定だったため、すぐに打ち解けた。先生はこちらが必要なきに助けてくださるというスタンスで、いつも学生が自由に意見や質問をぶつけあい、終了後は居酒屋や友人の下宿での番外編もよく開かれたからか、仲間たちとの付き合いは今でも続いている。

最短コースの三年でディプロマを取り、その後乳児と幼児がいながら、夫や舅姑の協力で、フランス語の夜学に暫くの間通えたのは有り難かった。二十七年前に夫の転勤で東京に移り、母として海外駐在員夫人として多忙なあまり、学校に行けない、というのは、私には不自然で窮屈なことだった。子育てを終え、夫の励ましもあって大学院に戻り、今は、日欧間を行き来し幾つかの言語を使って翻訳業やビジネスを展開しながら大学教員も勤めて、学生の皆さんと接する幸せを日々感じている。一生、学生時代。

【平成二十七年卒業生の「ご父母の皆様へ」】

卒業生のご父母の皆様におかれましては、ご子息ご令嬢のご卒業を心よりお喜び申し上げます。そして、卒業生の皆様におかれましては、それぞれの進路におきまして、更なる成長とご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

また、卒業後におきましても就職に関する相談等（電話・メール可）は、随時受け付けておりますので、いつでもご連絡ください。

【平成二十八年度を迎えるにあたって】

さて、平成二十八年度の就職活動は、三月一日に企業への広報活動が解禁となり、各所で合同企業説明会等が開催されているところです。そうした中、本学でも二月中旬に、「合同企業説明会ガイダンス・就職活動出陣式」と題して、合同企業説明会に参加するための準備、心構え等をはじめ、これから始まる就職活動に向けてのガイダンスと出陣式を副学長列席のもと、開催いたしました。その際、副学長から、「就職活動には、困難な事が多いが、充分に準備をして臨んでほしい」との応援メッセージをいただきました。そしてこの出陣式を経て本学独自の合同企業説明会、「創縁会」（三月一日〜三月十八日 於九段キャンパス）並びに「就勝2017・創縁会GP」（三月十一日 於ホテルグランドパレス）を開催いたしました。いずれの会も学生達の積極的な参加により、盛会のうちを終了することができました。このようにして新四年次生の就職活動は、名実ともに始まりを迎えたところであります。

しかしながら、新四年次生全員がこ

のようにスタートに踏み切れた訳ではありません。様々な事情により、未だ就職活動に取り掛かれていない学生も少なからずあります。たとえば本学では、例年十月から十一月にかけて、三年次生全員対象に、卒業後の進路についての個人面談を実施しておりますが、未だにこの個人面談を受けていないキャリアセクターに来たことのない学生もいます。今からでも結構ですので、是非ともキャリアセクターへ行くよう、ご家庭でもご指導いただければ幸甚に存じます。この個人面談は、大学卒業後の進路全般に関する事を確認するためのものなので、例えば「公務員を目指している」ので民間企業への就職活動は考えていない、或いは「大学院への進学を目指している」等といった、民家企業以外の進路希望であっても、キャリアセクターへ行き、面談を受けるようご指導くださいますよう、重ねてお願いいたします。

さて、ご存知の通り、就職活動の日程が、平成二十八年度から変更となり、企業による採用選考活動は六月一日解禁とすることは前号でご案内したとおりですが、必ずしも全ての企業が六月から採用選考活動を始めるとは限りません。既に選考活動を開始している企業や、年度が明けて四月に入るや、採用選考を開始しゴールデンウィーク明け頃には内々定を出す、という例年並みの動き方をする企業も大変多くあ

キャリアセンター だより ④

るといふ情報も各所からいただいております。或いは昨年度、内定辞退者が多数出てしまったため、今年度は大手企業群の採用活動がひと段落ついた頃から動き出す企業もあるというような情報も、いただいております。このように平成二十八年度の就職活動は、ある意味時期にとられず、随時動いている、ともいえます。そうすると、解禁と言われる六月まで、悠然と構えていては取り返しのつかないこととなってしまいかねないのです。このような状況において、学生には、既に採用活動は始まっているんだ、という認識のもとに就職活動に臨んでいただきたいと存じます。私も、学生一人ひとりに対して、しっかりと支援して参りますので、ご協力の程よろしく願っています。

【平成二十八年度就職支援活動】

ここで、本年度の就職支援活動について、今後の予定をご案内します。まだ詳細な日程は決まっておりませんが、せんので決定次第、学生を介して案内いたします。

まず四年次生対象には、学内合同企業説明会や、就職マッチングイベント等の開催のほか、活動中の学生への個別相談、希望により模擬面接の実施等、随時受け付けておりますので、キャリアセクターを利用するようご家庭でもご指導くださいますようお願い申し上げます。また三年次生に対しては、個別面談（全員対象です）や、通年で、授業形式による就職活動につい

て学ぶ講座「キャリアゼミ（就職特別講座）」をはじめとした各種講座等を実施しますので、是非ともご利用ください。また、平成二十五年から開講している公務員試験準備及びSPI対策講座（有料講座・二年次生対象）、更には平成二十六年より開講した公務員試験対策講座（有料講座・三年次生対象）も引き続き開講しますので、公務員希望者は是非とも受講してください。なお、一・二年次生につきましても、就職や卒業後の進路についての相談、各種検定試験の実施等、行なっておりますので是非ともキャリアセクターを利用するよう、お伝えください。最後にになりましたが、平成二十七年度も父母会からのご支援によりキャリアアカウンセラーの配置をはじめ、日本語能力検定試験等を実施して参りました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。



創縁会（学内合同企業説明会）



感謝

二〇一四・一五年

軟式野球大学日本代表(投手)

国際政治経済学部

国際政治経済学科

沢井 椋

私は三月十六日に二松學舎大学を卒業しました。

二松學舎大学で過ごした四年間は、「充実した時間だった」と自信を持って言えます。それは、四年間学部で成績優秀者になれた事と、所属していた軟式野球部で投手として大学日本代表選手に選出された事から、学生として文武の両面から満足しているためです。

特に大学軟式野球の日本代表メンバーとして大学三年時に台湾へ、四年時にグアムへと二年続けて海外遠征を経験できたこととはとても印象に残っています。

その中でも、三年時に開幕投手として経験した興奮と緊張の中、結果を残せたことは、貴重な経験となつて私を成長させてくれました。

この代表選考のおかげもあり、私は社会人でも軟式野球部に入部し、野球を続けていきます。



社会人での仕事と野球の両立は簡単ではないと思いますが、大学時代の文武両道の経験を生かし、自信を持ってチャレンジしていきたいと思っています。

私は、二松學舎大学に通わせてくれた両親と、共に成長しあえた仲間達に感謝の気持ちで一杯です。

そして父母会の助成により、充実した海外遠征となりましたこと、厚く御礼申し上げます。

学生相談室には、カウンセラー

と一対一で話をするための面接室の他に、フリースペースという場所があるのをご存知ですか。フリースペースは、その名の通り学生さんたちが自由に過ごせる空間で、学生相談室が開室している時間帯に利用することができます。

ソファが一つ、壁に向かって長机が二つ、そして、向かい合つて座れるテーブルが一つあるだけの小さなスペースですが、学生さんたちが空き時間を過ごす居場所になっていきます。一人で来る学生さんが圧倒的に多く、お昼を食べたり、ソファ席でうとうとしたり、課題や読書をしたりとそれぞれ自由に過ごしているようです。

カウンセラーはというと、相談の合間にフリースペースの様子をのぞく程度です。新しい学生さんを見つけたら、「いらっしゃい」、「ごゆっくりどうぞ」、「必要な時には遠慮なく声をかけてください」という三つのメッセージを伝えます。いつもの学生さんには、挨拶するだけのこともあれば日常

的な会話を交わすこともありま

す。場所だけを開放するのでも、一人一人としっかり関わるのでもなく、緩やかに見守り、緩やかにつなげる感じを大切にしています。

学生さんの話を聞いてみると、大学というのは、一人で、しかも心地よく一人で過ごすのが案外難しい場所のようです。まず、友達がそこにいるのに一緒に行動しないという選択肢は殆んどありません。そして一緒にいる以上は、ありのままであることよりも場の雰囲気を保つことに気を遣います。

逆に、いかにも楽しいげに過ごしている学生さんたちの中にも一人でいると、「一人ぼっち」の孤独を感じて心に北風が吹いたり、自分を意識してしまったりしてこれも落ち着きません。

フリースペースは、安心して一人になり、充電していける学内の穴場です。お子さんに合うかもしれないと思われましたらどうぞご紹介ください。

紹介ください。

学
生
相
談
室

だ
よ
り
92

カウンセラー 奥野 光

風が吹いたり、自分を意識してしまったりしてこれも落ち着きません。

フリースペースは、安心して一人になり、充電していける学内の穴場です。お子さんに合うかもしれないと思われましたらどうぞご紹介ください。

紹介ください。

紹介ください。

平成28年度二松學舎大学日程表

年	月	日	月	日	日 程
平成28年	3	28	~	4 9	ガイダンス期間 (10日間)
	4	6			入学式
	4	7			新入生歓迎式典
	4	11			春セメスター授業開始
	4	20			前期授業料納入期限
	5	28			父母会定期総会
	6	19			文化祭 (九段)
	6	26			体育祭 (柏)
	7	11			試験期間 (定期試験期間を含み18日間)
	7	16	~	8 5	
	7	29			授業期間終了
	8	6	~	9 14	夏期休業期間
	8	17	~	8 18	追試験
	9	5	~	9 8	ゼミ合宿期間
	9	15			秋セメスター授業開始
	9	19			(敬老の日) : 授業実施
	9	22			(秋分の日) : 授業実施
	9	30			春セメスター学位記授与式

年	月	日	月	日	日 程
平成28年	10	20			後期授業料納入期限
	10	28			休講 (学園祭準備)
	10	29	~	10 30	学園祭 (29日は休講)
	12	23			(天皇誕生日) : 月曜日の授業実施
	12	26	~	1 7	冬期休業期間
平成29年	1	10			授業再開
	1	14	~	1 15	センター入試 (12日・13日・14日休講)
	12	22	~	1 30	試験期間 (定期試験期間を含み18日間)
	1	23			授業期間終了
	2	7	~	2 8	卒業研究面接試験 (文学部)
	2	10	~	2 11	追試験
	3	初旬			卒業生発表
	3	中旬			ゼミ登録許可者発表 (文学部)
					進級者発表 (国際政経)
	3	16			学位記授与式 (卒業式)

- 団体**
- 榎本菜々美さん 第44回全書芸展 秀逸
 - 島田葉月さん 第67回毎日書道展 U 23 大字書部奨励賞
 - 武内すずさん 第32回読売書法展 入選
 - 第44回全書芸展 優作
 - 竹下友崇さん 第32回読売書法展 入選
 - 藤木実樹さん 第44回全書芸展 優作
 - 森紡葵さん 第32回読売書法展 入選
 - 第20回全日本高校大学書道展 優秀賞 (かな部)
 - 山本里緒さん 第32回読売書法展 入選
 - 和田圭菜実さん 第67回毎日書道展 U 23 大字書部入選
 - 大日向智貴さん 第59回千葉県短歌大会 学生部の部 天賞
 - 後藤佑美香さん 第59回千葉県短歌大会 学生部の部 地賞
 - 田中七空さん 第59回千葉県短歌大会 学生部の部 人賞
 - 西翔太さん 柏市立図書館・市内大学図書館知的書評合戦 (ビブリオバトル) チャンプ本賞
 - 横森夏穂里さん

学生顕彰報告

- THINK NOW ハンセン病ビブ
 - リオバトル チャンプ本
 - 白井亮太さん 東都大学軟式野球春季リーグ戦 打点王
 - 林京佑さん 東都大学軟式野球春季リーグ戦 優秀選手賞・ベストナイン (打点王)
 - 野本貴亮さん 東都大学軟式野球春季リーグ戦 最優秀防御率
 - 東都大学軟式野球秋季リーグ戦 ベストナイン
 - 狩野太地さん 第62回秋季千葉県学生剣道大会 第3位
 - 警視庁対関東学生剣道連盟親善試合 選手
 - 田宮啓佑さん 第27回全日本学生テコンドー選手権大会 トウル成年男子有段の部準優勝
- 課外活動団体助成報告**

 - 狂言研究会 第36回自演会 ポスター作成
 - 茶道部 卒業茶会 会場借用費用
 - コール・エコーズ 第48回定期演奏会 会場借用費用
 - 書道部 第50回記念二松学舎大学書道部学外展 ポスター作成
 - 軟式野球部 沢井 椋さん 第1回大学軟式野球国際親善大会 Guam 日本代表 (投手責任者)

永井ゼミナール

私たち永井ゼミナールでは、中国で実際に使用されている教材を用いて、翻訳や日中の対照研究をしています。

授業の中では中国の流行り言葉や方言を取り入れながら、実用的な中国語を学習しています。ゼミ生は各自で翻訳してきた文章を発表し、皆で比較しながら討論方式で最もふさわしい訳し方を探ります。討論方式の授業は自身の持つ様々な知識や考えを共有し合うた

め、自らの理解も深めることができます。他には日本語について書かれた中国人の論文を読んだり、グループに分けて研究発表を行ったりしています。

年に二回程、「中国語祭り」と題した中国語のみで行う授業があります。日常生活での出来事をテーマにしたものや心理テストのようなものを題材に、先生と一緒に楽しくコミュニケーションを取りながら行っています。そうすることで、自分が今身に付いている中国語がどのくらいのレベルに達し、どのくらい發揮

永井ゼミナールの最大の特徴は、何と言ってもアイドルが好きで永井鉄郎先生です！普段は顔に笑みを浮かべながらアイドルの話をする先生



でも、十カ国以上の言語を話せる先生から高度な語学を学ぶことのできるギャップのある楽しいゼミナールです！

中国文学科
三年
林 思婷

山口ゼミナール

私たち山口直孝ゼミナールの研究は、大西巨人『神聖喜劇』が中心に据えられています。春セメスターではまず『神聖喜劇』の作中に触れられる内容と関連のある作家やジャンルの近代文学を研究し、三年次秋セメスターと四年次春セメスターの前半を使って全五巻の研究に取り組んで行きます。また、もう一つの山口ゼミの特徴として、毎年ゼミ生たちで発行する論集『解

續』を五月に行われる文学フリマというイベントに出展、販売するというものがあります。自分たちの研究をこのように公に発表する機会を設けることは、ひとつの大きなモチベーションに繋がっています。

二〇一五年度三年次生は春セメスターでハンセン病文学、転向文学の作品を研究しました。山口ゼミで扱う作品は『神聖喜劇』も含め先行研究があまり行われておらず、予備知識が必要となるものも多くあるため、山口先生の指定した論文や用語についても調べて

山口ゼミは難しい作品を扱う大変さもありますが、それによって自分が今まで知らなかった多くの作品に出会い価値観の幅を広げることが出来る貴重な場であり、山口先生の豊富な知識

作品研究と共に発表します。必然的に発表の回数も多くなりますが、その分経験になりますし、新しい知識を蓄える楽しさややりがいもあります。夏休みには草津で合宿を行い、四年生の卒論の中間報告発表、指定された三つの作品の研究発表とその作品を原作とした映画の鑑賞をしました。



と魅力的な人柄もあって充実した活動の出来るゼミナールです。

国文学科 三年 丹治 可奈

ゼミ探訪

出来るかを知りたい機会になります。

お知らせ

平成二十八年度 父母会定期総会開催について

左記の日程により、平成二十八年度二松學舎大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は講演会を予定しております。

日時・平成二十八年五月二十八日(土)
場所・二松學舎大学九段キャンパス
一号館

内容・平成二十七年事業報告並びに決算

・平成二十八年度事業計画並びに予算

新二年次生と新四年次生の会員の皆様には、平成二十八年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第九十二号に同封してありますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票(委任状)で四月二十五日(月)までにお知らせください。定期総会資料につきましては、五月中旬に郵送にてお届けします。

平成28年度 地区別父母懇談会について

父母会事業計画の一環として、毎年地区別父母懇談会を開催しています。

平成二十八年度の開催地は、香川県・青森県・秋田県・栃木県・東京都・鹿児島県・新潟県の七会場を予定しています(日程は左表をご確認下さい)。

この地区別父母懇談会は、大学の現況、履修の状況、学生生活の状況、就職活動の支援等についての説明があります。

平成28年度 地区別父母懇談会日程表

開催日	開催地区
6月12日(日)	香川県(高松市)
6月18日(土)	青森県(青森市)
6月19日(日)	秋田県(秋田市)
6月26日(日)	栃木県(宇都宮市)
7月3日(日)	東京都(本学九段キャンパス) ※東京都・神奈川県在住の父母会員対象
7月10日(日)	東京都(本学九段キャンパス) ※千葉県・埼玉県在住の父母会員対象
7月24日(日)	鹿児島県(鹿児島市)
7月31日(日)	新潟県(新潟市)

全体説明終了後、個別相談を行っています。大学への質問及びご意見・ご要望などを大学関係者に直接話しができる機会です。この機会をぜひご利用ください。フリー参加形式としておりますが、会員の皆様に改めて事務局より開催案内をお送りし、出欠の確認をお取りします。万障お繰り合わせの上、ご参加願います。

編集後記

当該父母会員の皆様、御子息ご息女のご卒業おめでとうございます。二十七年最後の会報は卒業特集です。

本年も父母会では三月十六日の卒業式の後、「帝国ホテル」において卒業パーティーを開催いたしました。親しい友人やお世話になった先生方、ゼミの仲間たちと楽しい時間を過ごす様子をたくさん撮影させていただきました。羽目を外し過ぎない所は、さすが本学の学生諸君です。華やかで賑やかな会場の雰囲気皆様にもお伝えできたら幸いです。

また先生方の個性と思いが詰まった「卒業生への餞の言葉」は、卒業生のみならず皆様に見ていただきたいページです。

今後も本会報が会員の皆様への父母会活動報告となるよう、また大学と会員の皆様を繋ぐ一助となるよう努力してまいります。

末筆ではございますが、写真撮影や御寄稿等、取材にご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。そして編集に携わった全ての方にも感謝します。